

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 (1号館)		
所在地	名古屋市熱田区一番3丁目8番25号		
自己評価作成日	平成26年 7月14日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2390900039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設3年、角番を乗り切り4年目に突入、試行錯誤の毎日でした、スタッフもご利用者様も様変わりしました、そこで懸念されるのが、ご利用者様のADLの低下、年々高齢化となる昨今ご利用者様の健康上の管理、対応が日々刻々と変化しつつあるため、医療連携を最大に活用しご利用者様が健康で楽しく施設生活が送れるよう日々努力していきます、さらに行事、レクリエーション等に於いても計画、実行、(6月には、そうめん流しを行い楽しんで頂きました。)又、町内会とも手を取り合って行事等に参加していきます、以前ご家族様アンケートによる声を真摯に受け止め、外出支援等も積極的に実施して行きたいと思ひます、ご利用者様の健康状態と笑顔が絶えないお世話をめざして行きたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は法人の理念を基に、『いつも笑顔でこんにちは、楽しく過ごそう毎日を、ゆっくりお世話をいたします』をホームの目標として掲げている。業務は少々遅れても、利用者のお世話を最優先にと指導し、職員もそれらを受け止め、意欲的に支援に取り組んでいる。
生活保護者7名を抱え、利用者間の経済的格差が大きい中、満遍なく外出気分を味わう事を議論し、ホームで楽しむ工夫を職員からの提案で実現している。『建物横の砂利の洗濯物干し場のコンクリートによる整地』の職員からの提案を具体化し、日よけ・ベンチも備えた。おやつの中には、そのスペースで喫茶・流し素麺等を楽しみ、利用者にも喜ばれている。これまでのプランターでの家庭菜園を、畑での家庭菜園に代えるべく畑の造成中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念、運営目標、当施設の目標を毎週月曜日の本部からの朝礼で確認し申し送ることによって共有し実践につなげている	法人理念を基に、管理者の目指す方向性を示したホーム独自の目標を掲げ、事務所・リビング等に掲示している。法人の地域責任者の来訪時には、法人理念の共有の機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際のあいさつを始め町内会の清掃、イベントに参加し地域の一員として交流を深めている	月1回の神社の清掃当番を引き受け、子供獅子の立ち寄り、敬老祝い会への参加等、地域の中に溶け込んでいる。近隣への散歩では、行き交う人々への挨拶を大切に、近所の方から畑の収穫物のお裾分けもある。	認知症ケアや関わり等について、地域の方々に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場をかりて、当施設の取組、認知症への理解を配信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長をはじめ近隣住民、ご利用者様、ご家族様、職員、また行政の方々の参加にて当施設の運営に活かしている	行政(いきいき支援センター職員)・地域関係者(町内会長・民生委員)・オブザーバー(議題に合わせ消防・保健所等)、家族、利用者、知見者、管理者参加の下で年6回開催され、ホーム運営に有効に活用している。	報告・情報交換に留まらず、具体的なホームの課題をテーマとして、継続的な会議運営をして結論を出して行く事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所に於いての家族会の参加、講演、またいきいき支援センター、区役所、保護係とも日々連携をとっている	区役所生活保護課よりの困難事例に対して積極的に協力し、行政との信頼関係を構築している。役所関係(消防・保健所等)とも運営推進会議を通じて良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご本人様の身体に危険が生じようと思われる場合、一時的に拘束に繋がる場合はあるが、正しい知識の上ケアを実践している	玄関を出ると幹線道路に近く危険なので、施錠はやむを得ないと理解している職員もいる。基本は職員の手薄な時間帯や不穏利用者のいる時に限って施錠する事としている。利用者が出て行きたい時は一緒に付き添い、気分転換出来る様に支援している。	安全の面から『職員の手薄な時は施錠』と短絡的に考えず、極力施錠せずに安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設の法定研修や講習、また外部の勉強会に参加して防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を全職員が把握し必要性がみられる方には活用して頂けるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書において説明し理解をして頂けるよう努めている、ご本人様、ご家族様の納得と同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のご家族様へのお手紙にてご利用者様の現況報告をお伝えし面会時には要望等を傾聴している	家族が意見を言いやすい風土が出来ており、家族の来訪時に管理者・職員は出来る限り意見や要望を聞いている。『訪問マッサージを入れて欲しい』との家族の要望に対し、課題をクリアして対応した事例もある。	昨年比で家族アンケートの回収率、コメント記述が共に半減している。家族が『お任せきり』で足が遠のいている感がある。あらゆる機会を通じて協力要請される事を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議をはじめ普段から意見をもとめ運営に繁栄している	管理者は日頃から意見・提案を聞く機会を多く持ち、職員は意見を言い易い環境にある。『壁面の季節毎の飾り付けの常設展示』、『建物横の砂利面の舗装』、『舗装面の一部菜園化』等、多くの提案が具体化された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	7月より法人にて「よろず相談所」開設、就業環境の整備を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修、また外部研修の参加促し各自のスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熱田区グループホーム連絡会に参加して相互の交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	散歩に出掛けた時などお話をする機会をつくり意見や思いを傾聴しサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来設時には意見、ご要望をお聞きしサービスに活かしている、またご家族様との交換ノートも活用している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の現状を把握し最善のサービスが提供劇る様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、レクレーションなどご利用者様の能力に合わせて参加して頂けるよう声掛けを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様との時間を大切にしながらまたご家族様と共に支えて行ける様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が来設の際また来て頂けるように努めている	来訪する友人・知人が『又来るネ』と言ってくれる雰囲気作りに努めている。普通った岐阜の教会から会報が届き、隔月に来訪がある。利用者も楽しみにしている。米・果物持参で、40年来の友人の来訪があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しいものになるよう、間に入りコミュニケーションが取って頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も移転先に職員が面会に行くなどし、ご家族様にも連絡を取り合ったり、来設して頂けるような環境を整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動などからご利用者様の意見、要望を把握できる様に努めている	日常の支援の際の喧嘩から思いを受け止め、カンファレンスで取り上げて職員間で共有している。利用者がビルを見て『あれ、あれ、』と喧嘩を辿って行き、『名鉄のビルを作った人』と糸口を見つけた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様に生活歴や食生活を伺い、把握できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体の状態や変化を見逃さないように注意し職員間での情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの実施やご本人様やご家族様また必要な関係各位の方々の意見や、要望を伺い介護計画に反映させている	介護計画は利用者・家族本位に立案され、日々のケアに活かされている。家族アンケートでは唯一回答者全員の満足を得られている事から、家族に解りやすく説明している事が読み取れる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や詳細記録に記録し職員全員にて些細なことでも情報の共有にて日々のケアに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり状況の変化に対応できる様柔軟性に心がける、受診、往診、ときには買い物等も実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる社会資源の有効利用を図りご本人様のもてる力が発揮できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日個人個人の往診と月1回の総合往診の実施している、ご家族様の要望にも傾聴し診察に繁栄させている	24時間対応出来る提携医がかかりつけ医である。ほぼ毎日利用者の往診に来ており、利用者・家族の安心に繋がっている。職員ヒアリングでは、『何時でもなんでも聞けて心強い』との声も聞けた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問により状態の報告、医師への上申、相談にも努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療関係情報提供等、情報提供など綿密な連携を図る		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との信頼関係の構築、またご家族様との密な連絡等により支援を行っている	法人研修で『看取りについて』学んでおり、管理者は『終末期をホームで迎えたい』と言われたら相談にのる思いはある。末期がんで余命も告げられている孤独な利用者に対し、ホームと提携医で話し合い、急変時の対応を決めて職員にも周知して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、対処等日々職員は勉強会、講習会にて技術の取得に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、風水害等災害対策マニュアルに基づき日々の訓練の実施をしている	春・秋の年2回、ホームとして避難訓練を実施している。春は消防立ち合いの下、夜間想定訓練を行なった。運営推進会議でホームより『災害時には近隣の皆様の協力が必要』とお願いをしている。	ホームよりのお願いが地域に受け入れられる様に、運営推進会議の継続議題として取り上げる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生を永く過してこられた方々として尊敬を忘れないで接している	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事を周知しながら言葉かけや対応に心がけている。職員ヒアリングでは、『利用者の話は最後まで聞く』との言葉を聞く事が出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定出来る様希望、要望を傾聴し支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にその人らしく暮らせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、また季節に合わせた衣服、その人に合った色など導き出すよう支援している、訪問理容も活用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭きなど一緒にお手伝いをしていただいている、またご利用者様の嗜好などを把握して食事を提供している	利用者の『力量・希望』により、配膳や下膳・食器洗い・拭き等を行っている。担当が職員の意見・利用者の好み・健康状態を考慮して献立を決めている。月1回のレクでは、季節を感じさせる昼食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事、散歩、入浴後の水分補給には気配り、支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて、うがい、歯磨きを実施、口腔内の清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導等行うことにより失禁などを少なくなるよう支援している	トイレでの排泄を基本に、利用者の様子や態度を良く観察している。排泄の前兆を見逃さず、声かけや誘導を行い、排泄の自立へ向けて取り組んでいる。夜間帯は、センサーの知らせでトイレ誘導する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを把握し主治医の指導のもと便秘薬の服用も考え、水分補給や食事にも工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴出来る様、また清潔が保てるよう支援している	ほぼ全員が毎日午後から入浴し、1日に1回は着替えている。体調が悪かったり拒否の強い利用者は、清拭や足浴で対応する事もある。職員ヒアリングでも、『毎日入浴・・・』と、極当たり前の言葉が聞けた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間、居室等の温度調節への気配り、換気など過ごしやすい環境作りを支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のためのダブルチェックの実施、ご利用者様の体調変化などあれば主治医へ連絡、指示を仰ぐ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、家事、歌、など一人ひとりの好まれる事を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションなどは出来る限りご利用者様の希望を基に考え実施し、毎日散歩も行い地域の方々えば挨拶もして交流を図っている	近くの公園や喫茶店への日常的な散歩、全体行事の初詣や花見の他に、建物横の砂利の物干し場をコンクリートで整地してテーブルと日よけを設け、コーヒー・流しそうめん等、外気浴の機会を増やしている。必要な物を利用者と買い物に出掛る事もある。	家族アンケートでは最も厳しい評価を受けている項目である。利用者の日常生活(特に外気浴を含めた外出)を、より家族に理解して頂ける工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は当施設にて行っている、ご利用者様希望があれば職員の同行、または代行にて買い物の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解のもと電話が出来る様支援している、かかってくる電話についてもそのつど、とりついでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が不愉快な思いにならないよう清潔の保持に努め、壁にはご利用者様と一緒に、季節に合った作品づくり楽しんで頂いている	明るい陽光が差し込むリビングは、猛暑の続くこの夏でも程よい室温に保たれ、清潔で快適な生活空間である。壁には季節に合わせた『朝顔・花火等』が飾られている。リビングでは、テレビや新聞を見たり、洗濯物をたたんだり、思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人ひとり個室となっており、ご利用者様同士、会話出来る様リビングにソファを置き対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様の意見を傾聴し持ち込み家具などの配置はその都度柔軟に対応している	筆筒や仏壇・働いていた時代の写真・使い慣れた鏡台にブラシ等、思い出の詰まった品物が持ち込まれ、居室は自宅と変わらない雰囲気である。飾らないシンプルな居室もあり、個性に配慮した職員の気配りを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人ひとりの状態に合わせた環境作りを行っている、また動線上に障害物が無い様に心がけている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 (2号館)		
所在地	名古屋市熱田区一番3丁目8番25号		
自己評価作成日	平成26年 7月14日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2390900039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設3年、角番を乗り切り4年目に突入、試行錯誤の毎日でした、スタッフもご利用者様も様変わりしました、そこで懸念されるのが、ご利用者様のADLの低下、年々高齢化となる昨今ご利用者様の健康上の管理、対応が日々刻々と変化しつつあるため、医療連携を最大に活用しご利用者様が健康で楽しく施設生活が送れるよう日々努力していきます、さらに行事、レクリエーション等に於いても計画、実行、(6月には、そうめん流しを行い楽しんで頂きました、)又、町内会とも手を取り合って行事等に参加していきます、以前ご家族様アンケートによる声を真摯に受け止め、外出支援等も積極的に実施してきたいと思います、ご利用者様の健康状態と笑顔が絶えないお世話をめざしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念を掲示すると共に、毎月の職員会議、毎週の朝礼を利用して理念の共有を図り実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会との連絡を密にし地域行事への参加したり施設内行事への参加を案内し交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内行事の開示、参加等、認知症の方々との交流の場を提供し認知症の理解に繋げている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と消防訓練を組み合わせるなど意見交換の場作りしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所、いきいき支援センターと情報交換を密接にし協力してケアサービスの向上を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を防ぐための基本的ケアについて本部資料、マニュアル、書籍を使い研修を重ね理解、実践に取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者本位を常に念頭に心理的制止を含め互いに虐待のないケアを目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	判断力が低下した方々の尊厳を守るための法制度について学び利用する事の必要な方々を支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は重要事項説明書にて説明を行いご家族様の不安、疑問を傾聴し要望に応えられるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様から意見や要望を表出しやすいような態度、接遇に努め、頂いたご意見を運営に活かしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や業務カンファレンス、個人面談等随時開催し円滑な運営への意見や提案を反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員よろず相談所を開設し各拠点ごとにアドバイザーが訪問し就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村主催のキャリアアップ研修また社内研修について周知し参加希望に合わせて勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し情報交換を行っている、職員には公開研修への参加を促し同業者と交流する機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本様とお話をする機会を作り、不安や要望などを傾聴し良い関係を築くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来設されたときなどに不安、要望など傾聴し信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の必要とされる要望など状況に応じて見極め最善のサービスが提供できる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする家族の一員としてお互いに寄り添える関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来設時はご家族様との時間を大切にして頂き絆を深めて頂けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方々が気軽に来設して下さるよう家庭的な雰囲気作りを心がけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外食、散歩など楽しんで頂く中でご利用者様同士が関わりを持って頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談、支援を行い良好な関係を保つように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話や行動などから思いや要望を把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集のため、ご本様、ご家族様より生活歴など傾聴させて頂き、記録して職員全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で体調の変化など見逃さないように心がけ、職員間の情報、提供、交換を怠らないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンス、職員会議を開き状況に応じご家族様にも参加して頂くなどご本様、ご家族様から直接意見や要望を伺い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、詳細記録に記載し情報を共有するため、報、連、相を徹底することによって日々のケアに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、状況の変化があるためその時に応じた、対応をする様に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を有効的に活用できる環境作りに努めご本様、の持てる力が発揮できる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日一人ひとりの往診と月1回の全員の往診で対応している、その他の専門医受診はご家族様と協力して行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて状態の報告、相談、軽微な処置などを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関への情報提供は勿論のこと、訪院し相談や、場合によっては洗濯物を持ち帰ったり必要な物を届けたりしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医への相談、ご家族様や職員で十分な話し合いを行い地域の関係者とも連携を取りながら支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、上級救命講習を受講し取得、施設内で救急対応ファイルを作成し職員会議などで話し合う機会を設けるなど対応に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに基づき年二回消防署、署員に指導のもと防災訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の過去のバックグラウンド体験を十分に引き出して各々の人格を大切に接するように努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望、要望を日頃のケアの中で汲み取ったりお聞きしたりして自己決定を導き出すよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活を大切に喜んで頂けるようまた相互に楽しむよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の実施、入浴、また季節に合った衣服、その人に合った色など導き出すよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の得手、不得手を理解し食器の片付けのお手伝い、また嗜好などを把握して食事を提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	散歩、入浴後には季節に合わせて水分補給して頂き栄養バランスを考え健康に気配り支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケア、義歯の方には低刺激な洗口液を使用し口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を感じないご利用者様には時間を決め、また立ち上がった時、散歩の行き帰りなどを利用しトイレ誘導を行うなど支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による便秘薬などの処方にて予防に努めているほか適度な運動や水分補給をし自然な排便が出来る様努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔を保てるよう、また入浴により血行をよくして頂くようほぼ毎日の入浴を実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりを尊重し状況に応じて居室で休んで頂いたりしている、また室温調整をし快適に過ごして頂けるように心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のためダブルチェックの実施、体調の変化など職員同士で情報を共有し急変時にすぐに対応できる様主治医に相談、指示に従い対応できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いをせず日常生活の中で出来るお手伝いを日課としてやって頂くうちに自分の役割として積極的にして頂いている、またお手伝いを通じて他の方との会話もはずまれ楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションなどではできる範囲ご利用者様の希望を基に実施している、毎日の散歩では外気浴のほか近隣住民とのふれあい、挨拶もかわし交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様からの要望があれば買い物などに出掛ける支援をしている、またご自身で意見を伝える事が難しいご利用者様に対しても同様の支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に確認し了承を得た上でご本人様希望により連絡ができる環境にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は清潔に保ちご利用者様が暦を感じられるような工夫に努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の特徴を理解しご本人様の生活スタイルを尊重した環境に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ仏壇などの自宅を感じる事ができる居室の雰囲気作りを大切にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			